

令和2年度学校評価結果

R2年度 後期(12月)

アンケート項目番号	重点目標	評価の観点	(A評価を記載)	担当	3者アンケート結果			結果の考察	判定	評議員評価	今後の取組	
					評価者	A	B					A+B
教1-① 児6 児7	授業 (主体的・対話的な授業)	「三角ロジック」を意識した話し合いを指導している 相手に伝わる声で話したり、自分の考えと比べて相手の考えを聞いたりしていますか 自分の考えをわかりやすく伝えていますか。(三角で伝えようとしていますか。)	「三角ロジック」を意識して話す児童の割合(85%以上) 1-① できている⑥ できている⑦	研究 杉本	教師	57.1	42.9	100.0	前期とほぼ同じ結果となっている。CD評価の児童に対しての取り組みが不十分だったかと思われる。	B	A 47.6 A+B 91.0	CD評価の児童に対しての取り組みに関して、「自分の考えと比べて聞く」も「自分の考えをわかりやすく伝える」も自分の考えがもてていなければいけない。考えをもてるようにするという取り組みをしていかなければならない。
					児童	34.5	51.7	86.2				
					児童	41.4	37.9	79.3				
					平均	44.3	44.2	88.5				
教1-② 保3 児10	授業 (深い学びへの工夫)	深めの発問リーフレットを活用し「★思考を深める発問」を設定している。 学校は、分かる授業づくりを行っている。 授業はわかりやすいですか。	授業の中で設定している(80%以上) 1-② できている③ できている⑩	研究 杉本	教師	50.0	50.0	100.0	今後も児童の反応を捉え、授業の工夫が必要である。	A		考える楽しさが実感できるような課題作りや学校研究でも行っている。思考ツールの活用や対話を取り入れた授業を行っていく。
					保護者	40.0	50.0	90.0				
					児童	55.2	41.4	96.6				
					平均	48.4	47.1	95.5				
教1-③ 保5	基礎学力の確実な定着	朝学習を計画的に行うことができる。 学校は、計算や漢字等、基礎基本の定着を図るために授業の工夫を行っている。	児童自身がまとめや振り返り(適用問題)を行った授業(90%以上) 1-③ できている⑤	研究 杉本	教師	80.0	20.0	100.0	基礎基本の定着のために計画的に朝学習を利用している。	A		基礎基本の定着に関しては、漢字を苦手としている児童が多い。新出漢字の一度だけの指導に頼らずに繰り返し漢字を書く機会を作っていく。
					保護者	36.7	56.7	93.4				
					児童							
					平均	58.4	38.4	96.7				
教1-④ 保7 保10 児8	学習規律の徹底	45分の授業時間を確保するタイムマネジメントを行っている。 学校は、子どもたちに正しい姿勢、話す・聞く態度など学習規律の指導を行っている。 学校は、食育や歯磨きなど、健康についての指導を行っている。 正しい姿勢で学習していますか。	確保している 1-④ できている⑦ できている⑩ できている⑧	研究 保健 英	教師	66.7	33.3	100.0	姿勢以外は、前期よりも評価が高くなった。姿勢については、前期よりAB評価が10%低くなった。11月に各学級で保健指導を実施したことで、正しい姿勢ができていないと感じる児童が増えた可能性がある。	B		引き続き、学習規律を徹底して保護者にもその様子を周知する。姿勢指導については、できていないことよりも正しい姿勢ができていたり意識している様子を授業中や給食時間など積極的に認めて伸ばしていく。
					保護者	30.0	63.3	93.3				
					保護者	50.0	46.7	96.7				
					児童	27.6	41.4	69.0				
教1-⑤ 保4 児9	考えを書かせる指導	キーワードをもとに条件設定してまとめを書いたり、自分なりの気づきや課題を振り返りに書く指導をしている。 学校は、考えを書く指導を行っている。 自分の考えをノートに書いていますか。	している 1-⑤ できている④ できている⑨	研究 杉本	教師	62.5	37.5	100.0	前期よりも教師と児童のA評価の開きがなくなった。児童が自ら書かなくてはならないことを理解し、ノートに書けるようになってきている。	A		条件を設定して書かせることは、学力テストの課題でもあるため、今後も条件を設定したり自分の成長が実感できるような振り返りが書けるようにしていく。
					保護者	36.7	60.0	96.7				
					児童	64.3	32.1	97.2				
					平均	54.5	43.2	98.4				
教1-⑥ 保6 保2-1 児1 児2	家庭学習の習慣化	自学も含め、学年や個人に応じた(内容・時間)家庭学習の指導をしている。 学校は、児童が家庭で勉強する習慣が身につくよう指導している。 お子さんは家庭学習に取り組んでいる。 宿題を忘れずにしていますか。 家で学年×10分程度(1年生は20分)の学習をしていますか。	している 1-⑥ できている⑥ できている2-① できている① できている②	研究 杉本	教師	60.0	40.0	100.0	前期よりも「宿題を忘れずにしていますか」の項目が低くなっている。忘れる児童は固定化されていると思われるため、個別指導が必要である。	B		宿題忘れに対してはこれまでも指導をしている。今後も粘り強く指導を続けていく。家庭学習の内容も工夫し、基礎基本の定着や読書の推進に努めていく。
					保護者	36.7	56.7	93.4				
					保護者	24.1	62.1	86.2				
					児童	34.5	41.4	75.9				
教1-⑦ 児11	外国語活動の充実	「Can-doリスト」をもとに児童のつきたい力を明確にし、授業の中で評価を行う。 外国語活動では、習った英語を使って進んでコミュニケーションをとろうとしていますか。	90%以上の授業で行った 1-⑦ できている⑩	外国語 杉本	教師	0.0	100.0	100.0	外国語の時間には習った英語を使って進んでコミュニケーションをとろうとはしている。しかし、正しく言えているかは別なので児童の評価は低いと思われる。	B		まずは積極的に習った英語を使ってコミュニケーションをとることが大切である。英語で会話する楽しさが十分に味わえるようにしていく。
					児童	37.9	27.6	65.5				
					児童							
					平均	19.0	63.8	82.8				

1 個に応じた指導の充実と学力の向上

A

教1-⑧ 児14	ICTの活用	タブレットやパソコン、大型テレビなどICT機器を活用している。 タブレットやパソコン、大型テレビで授業をするとかかりやすいですか。	積極的に活用している(週1回以上) 1-⑧ できている⑭	情報 本山	教師 児童 平均	66.7 65.5 66.1	16.7 24.1 20.4	83.4 89.6 86.5	教師のICT機器の活用頻度が多くなった。対して、ICT機器を使うと授業がわかりやすいと答えた児童が若干少なくなった。必ずしもICT機器が分かり易いとは限らず、使い方の理解を深める必要性も感じた。	B		タブレットが入り機器の環境が整うので、教師と児童共に、使いながら操作方法を覚えていく。ICTサポートを授業に活用することで、情報教育や機器の操作方法への理解を深める。
教2-① 保14	道徳科の授業の充実	児童が自らの成長を実感できるよう、研究の重点を意識した授業改善に取り組んでいる。 学校は道徳授業の様子を保護者に伝えている。	月3回以上は取り入れている 2-① できている⑭	道徳 神村	教師 保護者 平均	60.0 40.0 50.0	40.0 50.0 45.0	100.0 90.0 95.0	職員の評価は20ポイントアップしたものの、保護者のA評価は8ポイント下がった。保護者A+B評価は4ポイント上がっている。道徳だよりの発行は、各学級1回ずつ、全校版1回であった。全校版の発行回数が少ないことが原因と思われる。	A	A 43.8 A+B 93.7	学級で発行している道徳だよりの通信欄に、保護者からのコメントが多く寄せられるようになった。保護者の関心は高まっているよう。そこで、全校版道徳だよりに、保護者の声をのせて、2月に発行する。
教2-② 保9 保2-2 保2-5 児4 児5	基本的な生活習慣の確立	下校後の家庭での時間の使い方を指導している。 学校は、児童が早寝により睡眠時間の確保ができるための取組を行っている。 お子さんは早寝により睡眠時間を確保している。 お子さんは約束を決めてメディアと付き合っている。 早寝(10時前)・早起き(7時前)をしていますか。 おうちの人と相談し、約束を決めて、ゲームやテレビなどのメディアにふれていますか。	いろいろな場面で指導している 2-② できている⑨ できている 2-② できている 2-⑤ できている④ できている⑤	保健 英	教師 保護者 保護者 保護者 児童 児童 平均	66.7 43.3 26.7 13.3 62.1 51.7 44.0	33.3 50.0 50.0 50.0 27.6 17.2 38.0	100.0 93.3 76.7 63.3 89.7 68.9 82.0	睡眠時間の確保について、前期と比較して保護者の評価は若干下がった。メディアの約束については、保護者・児童共に60%代と低いが両者の誤差がほとんどなくなり、両者の認識が一致してきた。メディアの約束を家庭と学校で協力して指導していくことで、睡眠時間の確保も併せて評価が上がると考えられる。	B		すぐぐんチェックやメディア週間、生活目標の取り組みを通して個別や学年での現状を把握しながら、集団と個別に合わせた指導を行う。また、特に気になる児童には休日や、下校後の過ごし方について一緒に考え、保護者と協力して児童の生活を見直す機会を作る。
教2-③ 保8 保2-4 児12	あいさつの習慣化	どこでも元気よく先あいさつをするよう指導している。 学校は、心を伝えるあいさつができる子になるよう取り組んでいる。 お子さんは家庭や地域でのあいさつを行っている。 気持ちのよいあいさつしていますか。(先あいさつ、目をみてあいさつ、元気のよいあいさつなど)	いろいろな場面で指導している 2-③ できている⑧ できている 2-④ できている⑫	生指 古田	教師 保護者 保護者 児童 平均	75.0 53.3 36.7 72.4 59.4	25.0 46.7 46.7 27.6 36.5	100.0 100.0 83.4 100.0 95.9	学校の取り組みに対する保護者の認知度は、増加している。しかし、家庭での挨拶が定着していないと感じている保護者が多い。	A		1月の生活目標の取り組みで家庭での挨拶を促していく。そうすることで、家庭での挨拶の定着を目指す。
教2-④ 保11 児13	いじめ等への対応	授業の中で、どの子にもよさを認める、ぬくもりのある指導をしている。 学校は、いじめや児童の問題などに、適切に指導・対応している。 なかよし班の仲間や友だちと仲よく助け合っていますか。	どの子の良さも認める指導をしている 2-④ できている⑪ できている⑬	生指 古田	教師 保護者 児童 平均	87.5 46.7 55.2 63.1	12.5 46.7 37.9 32.4	100.0 93.4 93.1 95.5	教師・保護者・児童全体の評価がよくなっている。なんでも相談や学校アンケートで出てきた児童の悩みを、各担任がしっかりと受け止め、解決に向けて働きかけた結果だと言える。	A		今後も定期的なアンケートを通して、児童の実態把握を行っていく。また、悩みや苦痛を感じている児童の立場に立って話を受け止めていく。さらに、校内での情報共有も迅速に行い、組織での対応を心がける。
教2-⑤ 保12	心の教育	ねらいを明確にして、充実した交流活動を行っている。 学校は、地域の伝統や文化を大切にし、児童の豊かな心を育成するための取組を行っている。	行っている 2-⑤ できている⑫	生指 古田	教師 保護者 平均	66.7 66.7 66.7	33.3 33.3 33.3	100.0 100.0 100.0	でんでこ太鼓発表会があったことで、伝統を伝える・受け継ぐ活動を行うことができた。そのため、特に教師のA評価が、前期に比べて増加している。	A		送る会に向けて、在校生から卒業生に対する思い・卒業生から在校生に対する思いを、それぞれ明確にして準備や練習に取り組みさせていく。そうすることで、小規模ならではの縦のつながりの良さや上学年の役割等を在校生に受け継がせていきたい。
教2-⑥	異学年交流	なかよし班活動を通して、児童の思いやりある心を育てている。	なかよし班活動に進んで参加しており、児童の心も育てている 2-⑥	特活 杉本	教師 平均	60.0 60.0	40.0 40.0	100.0 100.0	後期のなかよし活動も制限をつけながら行っている。本校は様々な機会に全校児童が交流できるためなかよし活動の代わりになっている。	A		高学年のリーダーとして役割を担っていくためのなかよし活動は今後も計画的に行う。活動内容に関してはコロナの感染予防を第一に考え、行っていく。
教2-⑦ 保2-3 児3	読書活動の推進	図書館利用計画に基づく活用を行っている。 お子さんは親子読書、週末読書など家庭での読書に取り組んでいる。 家庭で読書(親子読書、週末読書)をしていますか。	90%以上は活用している 2-⑦ できている 2-③ できている⑯	読書 古田	教師 保護者 児童 平均	33.3 26.7 86.2 48.7	66.7 30.0 6.9 34.5	100.0 56.7 93.1 83.3	保護者の読書活動に対する認知度が減少している。児童が読書をする時間帯に保護者が帰宅していない。又は、親子読書を行っていない。この二点が考えられる。	B		週3回の読書活動を確実にやっていくこと全学級で確認する。また、平日・週末読書や親子読書が確実に行われているかを、読書カード・私の本だなを利用してチェックする必要がある。

2 豊かな心とたくましく生きる力の育成

A

教2-⑧ 児15	体力の向上	1校1プランを意識した運動（長座体前屈，持久走）を授業等で取り組んでいる。	週2回以上取り組んでいる2-⑧	体育 本山	教師	20.0	80.0	100.0	週に最低でも1回は、1校1プランを意識した運動を行っている。また、進んで体を動かさず児童の割合が増えた。「外遊びデー」の取り組みや、前期に比べて休み時間にできるボール遊びが増えたことが理由として考えられる。	A		引き続き、授業の導入には1校1プランを意識した運動を取り入れる。例えば、「ボール運動」の単元の際は、ボールを使って柔軟体操を行う。「外遊びデー」は内容に偏りが出ないように、場所や内容を考える。	
		進んで体を動かしていますか。	できている⑬		児童	72.4	20.7	93.1					
					平均	46.2	50.4	96.6					
教2-⑨	自然とのふれあい	「自然ふれ合いタイム」や各教科における自然環境の積極的な活用。	学級で月2回以上の活用をしている2-⑨	教務 神村	教師	0.0	83.3	83.3	自然ふれ合いタイムは1学期0回だったが、2学期は2回実施した。授業における活用の回数が増えたと思われる。	B		3学期は雪遊びを取り入れる。また、体育委員会主導で行われている外遊びデーでの中庭を活用を促す。来年度は、外遊びデーの取組も評価に入れたい。	
					平均	0.0	83.3	83.3					
教3-① 保2	地域に開かれた教育課程	保護者や地域人材を日常的な授業や行事，体験活動などで活用している。	計画に従い活用している（90%以上）3-①	教頭	教師	42.9	57.1	100.0	新型コロナウイルスの影響で、後期も限られた活動とはなったが、教育ウイークに「防災教育の日」と銘打って、公開授業や避難訓練、防災講演会や子供ボランティアなどの活動や太鼓発表会など本校独自の活動を地域人材を活用して行うことができた。	A	A	今後新型コロナウイルスの感染状況を見ながらとはなるが、教師が、カリキュラム・マネジメントの視点を明確に持ち、保護者や地域人材を、授業や行事、体験活動などで積極的に活用していきたい。	
		学校は、保護者と連携・協力した学校づくりを行っている。	できている⑭		保護者	43.3	43.3	86.6			A+B	48.1	
							平均	43.1			50.2	93.3	A+B
教3-② 保1	保護者・地域との連携	ホームページや通信，連絡帳等を通して学校の様子を知らせている。	知らせている3-②	校長	教師	66.7	33.3	100.0	2学期以降は新型コロナ対策をとりながら、予定通り学校行事や授業が行えたので、学校HPや学校便り等で教育活動の様子を伝えることができた。	A	A	学校行事や特別な授業を中心に学校HPに載せていたが、普段の授業の様子や掃除、給食などの様子もHPに載せて伝えていきたい。	
		学校は、教育活動の様子をわかりやすく保護者に伝えている。	できている⑮	保護者	40.0	50.0	90.0						
					平均	53.4		95.0					
教3-③ 保13 保2-6	危機管理	危機管理意識を持って児童への指導を行い，週案にも記載している。	常に週案にも記載している3-③	教務 神村	教師	62.5	37.5	100.0	安全指導に関する、週案への記載が確実にされている。しかし、安全管理への対応ができていないという保護者は100%だが、A評価は減少傾向にある。	A	A	大雪への対応や、集団下校など、安全に関する取組はきちんと行ってきた。ただし、これら取組はアンケート実施前だったため、結果に反映されなかったと思われる。安全にかかわる学校の取組を、HP等でアピールし、保護者の印象に残す。	
		学校は、避難訓練や交通安全指導など、安全管理への対応が取られている。	できている⑯		保護者	53.3	46.7	100.0					
		お子さんは安全に登校し、不審者や事故から身を守ろう気をつけている。	できている2-⑥		保護者	27.6	62.1	89.7					
					平均	47.8	48.8	96.6					
教4-①	学4 校運営 PDCA サイクル を意識 した、 組織的 な	取り組みの改善	PDCAサイクルを意識して取組を提案し，改善している。	提案、改善の取り組みをしている4-①	教務 神村	教師	28.6	71.4	100.0	A評価が下がった。各種行事、生活目標の取組を終えたら、振り返りを記入し、検証を行っている。改善に関する協議または提案につながっていないことが原因かもしれない。	A	A	振り返りによる検証を終えたら、改善案を提示していく。次年度への申し送り事項については、現職員で共通理解していく。
								平均	28.6			71.4	
教4-②		働き方	勤務時間を意識した効率的な働き方をしている。	1カ月の時間外勤務時間の平均が60時間以下4-②	教頭	教師	28.6	42.9	71.5	校務支援システムの活用や業務の効率化・省力化を進めてきた。また、19時以降学校に残る場合は、管理職に報告するようにし、計画的な業務の遂行を促すなどして、職員の意識改革を図ってきた。一方で、行事などの関係もあり、十分な成果につながらなかった。	B	A	今後も一層、取組を徹底するとともに、職員の意識改革を進め、勤務時間を意識した効率的な働き方を促していきたい。
					平均	28.6	42.9	71.5					